

次の記述 a ～ c は、森林の公益的機能を貨幣評価する方法についての記述である。各記述に該当するものの組合せとして妥当なのはどれか。

- a. 森林がもつ降雨の貯留機能をダムで果たすことを想定して、ダムの建設費や償却費から森林機能の価値を求めるなど、森林と同等の機能を提供する財を探し、その財の価格で森林の環境的機能の価値を評価する方法
- b. 主にレクリエーションや景観の評価に用いられる方法であり、対象地までの旅行費用や訪問率、旅行者数などからレクリエーションの需要関数を推定し、その消費者余剰も考慮して貨幣価値に換算し、対象地の評価額とする方法
- c. 例えば、ある河川の上流域の森林を伐採する場合に、環境の変化に対する受け入れ補償額あるいは環境の変化を起こさせないための支払い意志額を直接人々から聞き出し、その額を分析することにより、環境の価値を評価する方法

a	b	c
1. 仮想市場評価法 (CVM)	代替法	トラベルコスト法
2. 仮想市場評価法 (CVM)	トラベルコスト法	代替法
3. 代替法	仮想市場評価法 (CVM)	トラベルコスト法
4. 代替法	トラベルコスト法	仮想市場評価法 (CVM)
5. トラベルコスト法	仮想市場評価法 (CVM)	代替法

人工林の保育に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

1. 一般に、植栽木の植栽密度が高いほど、下刈りを必要とする期間は長くなる。
2. 下刈りには全刈りと部分刈りがある。雑草木の一部を残す部分刈りには労力が軽減されるという長所があるが、植栽木が寒風害を受けやすくなるという短所もある。
3. つる切りは、有害なつる植物の成長が停止する冬に行うのが効果的である。
4. クズは、他のつる植物に比べて植栽木の樹幹部への食い込み被害を著しく与えるため、特に巻き付きの初期につる切りを行う必要がある。
5. 枝打ちは、無節の材を生産するのに効果があると同時に、スギノアカネトラカミキリのような枯枝から侵入する害虫の防除にも効果がある。